

村田峰紀

「Out-of-body」

2024.1.14(sun) — 3.10(sun)



この度 rin art association は村田峰紀による個展「Out-of-body」を開催いたします。

村田峰紀は活動初期からドローイングを主体としたパフォーマンスを継続的に行っております。

大学の卒業制作で行われた鉛筆を食べ、咀嚼して飲み込めなかった大量の言葉をドローイングとして吐き出すパフォーマンスは当時大きな注目を集めました。

その後はボールペンを用いて、「かく」という言葉の考察をテーマとしたドローイングという行為によって鑑賞者に対し、生で彼の言葉を発するパフォーマンス作品を数多く発表し、国内外で高く評価されてまいりました。

コロナ禍もあり、パフォーマンスの発表が出来ないことにより、作品は大きく強度を増しながら展開してまいりましたが、彼の制作の根幹にはやはりパフォーマンスがあります。

今展では、近年の代表作であるTVモニター、シャツ、ギターを用いた複合的なパフォーマンスに現在の行為(エフェクト)を加えて、過去の自身の行為と時間の流れを現在の彼が俯瞰的に見つめます。

自身を主観的な視点ではなく、俯瞰的な視点に切り替えて見ることで様々なものの見え方は変化していくことでしょう。

村田峰紀のパフォーマーとしての新境地をぜひこの機会にご体感ください。

※展覧会初日にパフォーマンスが行われることでインスタレーションが完成し、その後は痕跡としての作品の展示を行う展覧会になります。

暗闇が広がる風景、奥に必ず壁が存在するはず。目視することは出来ない、目に映るのは闇だけで、光を求めてもない。この空間をどう把握するのか？石を投げてみる、音で距離を測る。長い棒で突きながら歩く、など様々な方法があるだろう。私に出来るのは暗闇に全力で向かって行くことだ。勿論、壁に激突することになり、痛みをもって、触れることで私の居場所を確認できる。対象に一点集中で向かい続けるその行為は意識を超えて身体にゆだねることになる。意識と身体が分離し、イメージか現実なのか、わからないが私は自身を含めた全体を俯瞰する。その現象がたまに訪れることがある。またそれが訪れなくても意識は外側にあり冷静さが常にある。ここがどこであり、今何をすべきなのか瞬間で判断することを強いられる、この行為が、今に立ち向かう最善の方法だと思っている。

村田峰紀

村田峰紀

1979年群馬県生まれ。

2005年多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。

主な個展に「share」多摩美術大学八王子キャンパス彫刻棟ギャラリー 2023年、「Transition」rin art association MAEBASHI 2023年、主なグループ展に、「ニューホライズン 歴史から未来へ」2023年 アーツ前橋、「N/World」2022年 MtK Contemporary Art、「BORDERLANDS」2021年 BankART KAIKO など。

[水-日] 11:00-19:00 [月-火] 休廊

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24

t:0273-87-0195 e:contact@rinartassociation w:http://rinartassociation.com